

「心こもった」看護学ば

山形・東北中央病院 香港の2人研修



脊椎手術における患者のケアなどについて
研修している香港の看護師（左の2人）

＝山形市・東北中央病院

香港の病院に勤務する女性看護師2人が脊椎の手術件数が全国でトップレベルの東北中央病院（山形市、田中靖久病院長）で研修している。患者との接し方の違いに驚きながら、香港の

医療レベル向上に向け、熱心に学んでいる。来県しているのは香港屯門（トウナムン）病院に勤務するワン・シュー・レインさん（44）とクオク・ライ・チンさん（37）。東北中央

病院は2008年以降、10カ国の医師41人を研修で受け入れており、今回は研修を経験した香港屯門病院の医師からの依頼で、看護師を受け入れることになった。

2人の研修は16日にスタート。脊椎の手術を受ける患者に対し、術前の入浴介助や点滴などを行い、手術を見学した後は経過観察や血圧の測定などのケアを行っている。20日までの日程で日本の医療現場について理解を深めている。

「退院する人の見送りなど、患者を家族のように扱っている点に感銘を受けた」とワンさん。クオクさんは「心のこもった看護の姿勢に驚いた」と話していた。